

佳作

自分に負けない

高知県 土佐市立新居小学校四年 明神 実果子

春休みが終わって、一つ学年が上がり、わたしは四年生になりました。教室も変わって、机もイスも高くなり、少しお姉さんになったような気持ちで新学期をむかえました。

でも、四年生が始まってすぐ、耳の調子が悪くなりました。授業中に、急に左耳が聞こえなくなりましたので、最初はだれかにふざけて耳の中に指を入れられたかと思ってしまいました。だんだん先生の声が遠くなって行って、今度は頭の中で大きな音の音がグワングワンと鳴りびびっているようになりました。そして、まるで水の中にもぐっているようになって周りの音が分からなくなりました。でも、ちょうどその時は風邪をひいていて、いつもの中耳炎だろうと思っていました。

次の日、耳鼻科で言われたのが、今までに聞いた

ことのない「突発性難聴」という病名でした。この病気は、早く治りようを始めないと手遅れになるので、すぐに国立病院に入院することになりました。わたしにとって初めての入院だったけど、まだ小さい弟がいるので、お母さんの付きそいなしで入院することにしました。病室で一人になって、点滴をしていると、「もし、このまま耳が聞こえなまやったらどうしよう」と、同じ事を何度も考えて、真つ暗なトンネルの中に取りのこされたような気持ちになりました。耳鳴りと頭痛も中々おさまらなくて、しんどくて苦しかったです。わたしがしずんだ顔を

していると、お母さんが、
「今はむずかしく考えんで、えいき、ゆっくり休みや。」
と優しく笑って言ってくれて、気持ちが少し楽になりました。

入院して四日目の聴力検査の時に、音が前の日よりもスーッと入ってきて、良く聞こえました。ちょうどその日に、せいみつ検査の結果も出て、耳にはいじょうがないことが分かりました。わたしの左耳は、聞こえるのに聞こえていなかったのです。頭の中はぎ問だらけになりました。耳がなおっていくの

と反対に、心の中には、モヤモヤがたまっていきました。その中で、毎日会いに来てくれる家族や、お見まいに来てくれる人達が元気をくれました。そして、病院で同じ部屋になった子達とすごしていくうちに、学校の友達と話さないこともたく山話して、「みんな色々あるがやなあ」と思いました。入院する時に、先生が

「日じようからはなれてすごしてみよう。」
と言った意味がようやく分かりました。自分の弱さからにげないで、しっかりと向き合う事が大切なのだと気づく事ができました。

退院後も、耳鳴りと頭痛が時々あるけど、くよくよせず、自分の体を休めるサインと思うようにしています。耳がきこえなくなった事も、マイナスではなく、プラスに考えていきたいと思えます。これからは、自分に負けない強さを持ちたいです。